

ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第3弾が公開されました！

ニッキン投信情報（8月12日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第3弾が公開されました。

本連載は計12回（毎月1回）を予定しています。

第3回目となる本紙では“**インデックス組み入れで注目を集めるインド債券市場**”について寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2024年8月12日発行 第1326号 (1)

ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2024 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-3-15 電話 03(3261)9871
週刊（毎週月曜日発行） 購読料（別冊込み）1ヶ月138,288円（税込）

CONTENTS

09 〈特別調査〉投信資産実績（2024年6月末）
24年度第1四半期販売金額は前年同期比48%増の1兆5,891億円

資産実態金融機関（372機関）を対象に、2024年6月末における投信資産実績を調査した。24年4～6月の販売金額（24機関合計）は1兆5,891億円となり、前年同期比5,174億円増（+48.3%）した。24年6月末の投信預かり資産残高（347機関合計）は前年同月末比6兆6,027億円増加（+21.8%）し、36兆8,923億円となった。

03 ESGを巡るパニック
04 新NISAで個人の投資行動に変化はあったのか（上）
— 新NISAで変わりつつある個人の投資行動 —
第一生命経済研究所 経済調査部 研究理事 佐久間 啓
07 投信資産継承者に関する 鹿児島銀行 真砂支店 上杉旬生さん
お客さまの立場に立つ
02 ファンド列島 宮城風
新NISAが営業の追い風に
08 SBI資産3アセットマネジメント『日本好配当リバランスオープンII』
ルールベースで70銘柄に等金額投資 月1回のリバランスで好パフォーマンス
01 新規販売額ランキング（2024年7月発表）
あおぞら「ぜんどう2407」が220億円で1位
05 新規募集・設定ファンド
大和「一歩先いく グローバル・インベション企業インデックス」など3本
06 販売会社情報 七十七、横浜銀、北国銀、紀陽銀、佐賀共栄銀、東濃信金
08 運用会社情報 大和、グローバルX
09 黄金時代到来！？なるほどインド講座（第3回）
インデックス組み入れで注目を集めるインド債券市場
イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友
10 月間マーケットウォッチ
円ドルに振り回された日本株 日銀タカハラ姿勢で米日金利息差を意図
大和証券 投資情報部 ストラテジー課 シニアストラテジスト 堀井秀司
11 シン・温故知新のつみたて投資（第4回） 米国株ファンドだけなぜ売れる？
日本つみたて投資協会 代表理事 太田 創

「ニッキン投信情報別冊 金融機関別 厳選ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikkir.co.jp/toushin/touraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS

本連載記事については
2ページ目をご覧ください。

<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。○当資料で使用するグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

連載



6月28日から新興国債券の代表的な指標であるJPモルガンのインデックス・シリーズへのインド国債組み入れが始まりました。組み入れは約10カ月間にわたって段階的に進められ、最終的には同シリーズの一つであるJPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド・インデックスの場合、最大で10%組み入れられる見込みです。昨今ではインド株式投資は投資家に定着してきましたが、インド国債についてはまだ浸透していないように感じます。今回はインド国債投資についてみてみたいと思います。

ミドルリスク、高利回りのインド国債

新興国債券は一般的に金利のボラティリティ(変動)が大きく、リスクの高いイメージがありますが、実はインド国債のボラティリティは他の新興国国債と比較して、相対的に安定しています。その背景の一つとして、国債市場に占める外国人投資家保有比率が他国に比べて低い点、世界的なリスク回避局面でも、資金流出により金利が急騰するような事態になりにくいという点が考えられます。

インド国債の格付けはBBB- (S&P) と投資適格でありながら、10年国債利回りが7.0% (2024年6月末時点) と相対的に高いという点も、投資妙味があります。また、通貨インドルビ

ーは対米ドルでは比較的安定していることもあり、中長期的にはインド国債投資のトータルリターンは他の先進国や新興国債券を上回っています。

インド投資はファンド経由が最適解

日本国内から、インド現地の有価証券(株式、国債など)への投資は、制度上は可能ですが、実務上は(少なくとも現時点では)できない、と考えるべきでしょう。インドのFPI(外国人ポートフォリオ投資家)資格の取得、現地口座開設、現地カストディ銀行の選定や税務代理人の設定、PAN(納税者番号)カードの取得など、インド当局の承認が必要となる項目も多く、手続きが煩雑なため、私の知る限りでは日本の金融機関でインド現地の株式や国債などに直接投資できる口座の取り扱いはないと思います。現時点ではファンドを通じた投資が唯一の方法でしょう。だからこそ、インド投資はファンドで投資する意義があるとも言えます。

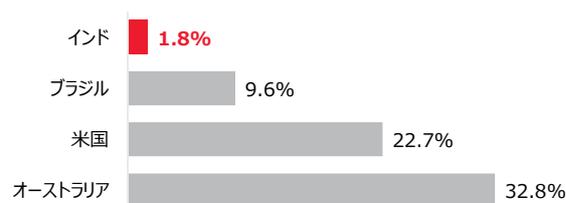
今後の注目点

金利のボラティリティが相対的に低くミドルリスクでありながら、一方で高い利回りが期待できるインド国債投資は、キャリー投資(金利の利ザヤに着目した取引)には理想的と言えるかもしれません。インデックスへの組み入れに伴い、インデックスに連動するパッシブ運用の投資家だけでなく、アクティブ運用の投資家からの資金流入も期待され、数百億米ドル規模の資金がインド債券市場に流入すると見られています。今回のインデックス組み入れで債券価格が急騰する、とまでは期待はしていませんが、今回のニュースをきっかけに多くの投資家がインド国債投資の魅力に気付いてくれれば、と願っています。

(執筆: イーストスプリング・インベストメンツ)

取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友)

図表1 各国国債市場の外国人投資家保有比率 (2023年12月末時点)



出所: IMF (Sovereign Debt Investor Base Dataset for Advanced Economies, Sovereign Debt Investor Base for Emerging Markets and Developing Economies) のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※インド、ブラジルは現地通貨建国債市場における外国人投資家の保有比率を使用。

本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。

図表2 インド国債の累積リターン (円換算ベース) の推移 (2012年12月末~2024年6月末、日次)



出所: Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*「インカムゲインなど」は、トータルリターンからプライスリターンを差し引いて算出。